

物性・反応・生物の分子物理化学 :理論と実験の最前線

共催:日本化学会 協賛:応用物理学会 後援:名古屋大学学術振興基金

21世紀COE 京都大学化学連携研究教育拠点

日時 2004年9月12日(日) - 14日(火)
場所 琵琶レイクオーツカ(滋賀県近江舞子)
URL <http://quanta.synchem.kyoto-u.ac.jp/rks/>

招待講演

ロドプシン内で光はどのように機能へと変換されるのか?

超臨界流体からみた凝縮系のエネルギー散逸過程

疎水効果と水の相転移

身近になったタンパク質の量子化学計算:その意義と将来展望

複雑な分子システムに対する次世代密度汎関数理論

分子系の非線形/量子光学特性およびエキシトンダイナミクス
に対する理論化学的アプローチ

光合成水分解(酸素発生)反応のメカニズム

有機ラジカル結晶が示す磁性:構造変化と磁気相転移

機能典型元素化学:材料科学を指向した分子設計

光受容タンパク質の反応機構の分子論

神取 秀樹 (名大院工)

木村 佳文 (京大国際融合創造セ)

甲賀 研一郎 (岡山大理)

佐藤 文俊 (東大生産研)

常田 貴夫 (東大院工)

中野 雅由 (阪大院基礎工)

野口 巧 (筑波大物質工)

藤田 渉 (名大物国セ)

山口 茂弘 (名大院理)

倭 剛久 (名大院理)

ポスターセッション(参加者からの申し込みによる発表)

理論化学シンポジウムは理論・実験を問わず広義の分子科学の研究者が集い、分子科学の最近の進展を議論し、学問の将来を探る目的で開かれています。合宿形式により、通常の学会よりもインフォーマルな雰囲気の中で、分野や世代を超えて、研究上及び個人レベルでの交流を促進させ、十分な議論が出来るように運営されます。

対象 化学・物理・生物の境界領域の展開に興味のある理論および実験研究者(学生を含む)

参加費(予定) 一般(3万円程度)、学生(2万5千円程度) 参加登録費、宿泊費、食費が含まれます。

問い合わせ先・世話人

岡崎 進 (分子研)

岡崎 俊也 (名大院理)

長谷川 淳也 (京大院工)

熊崎 茂一 (京大院理)

okazaki@ims.ac.jp

okazaki@nano.chem.nagoya-u.ac.jp

hasegawa@sbchem.kyoto-u.ac.jp

kumazaki@kuchem.kyoto-u.ac.jp